

## 茨城県那珂湊沖から得られたドクウロコイボダイ (ドクウロコイボダイ科) の記録

土屋 勝\*・舟橋正隆\*\*

(2015年9月17日受理)

### A Record of *Tetragonurus cuvieri* (Perciformes: Teragonuridae) from off Nakaminato, Ibaraki Prefecture, Japan

Masaru TSUCHIYA\* and Masataka FUNABASHI\*\*

(Accepted September 17, 2015)

**Key words:** Stromateoidei, Teragonuridae, *Tetragonurus cuvieri*, Ibaraki.

ドクウロコイボダイ科 Teragonuridae は、世界中の温帯海域から熱帯海域にかけて広く分布しており、咽頭部と食道の間にイボダイ亜目 Stromateoidei の共有派生形質である食道嚢を有することから、イボダイ亜目に属する (Doiuchi *et al.*, 2004; Haedrich, 1967, 1986; 中坊・土居内, 2013). 本科はドクウロコイボダイ属 *Tetragonurus* のみから構成され、ドクウロコイボダイ *Tetragonurus cuvieri*、つまりドクウロコイボダイ *Tetragonurus atlanticus* および *Tetragonurus pacificus* の3種を含む (Abe, 1953, 1955; Nelson, 1994). 日本近海からはその内、ドクウロコイボダイとつまりドクウロコイボダイの2種が報告されている (e.g. Abe, 1955; 藤田・西野, 1966; 岡本ほか, 2001).

2015年4月に茨城県那珂湊沖で操業していた底曳網船によって、1個体のドクウロコイボダイが採集された (図1). 本種は、太平洋・大西洋の熱帯から温帯海域にかけて広く分布し、日本では北海道、岩手県、福島県、千葉県、神奈川県、静岡県および三重県からの記録がある (Abe, 1953, 1955; Abe *et al.*, 1988; 藤田・西野, 1966; 中坊・土居内, 2013; Suzuki *et al.*, 1995).



図1. ドクウロコイボダイ.

**Fig. 1.** Fresh specimen of *Tetragonurus cuvieri*, INM-1-063001, 343.1 mm SL, from off Nakaminato, Ibaraki Prefecture, Japan.

茨城県では、1983年12月に日立沖で採集された1個体が県内初記録とされた (Abe *et al.*, 1988). しかし、その後、本種は茨城県沖から記録されていない (舟橋, 1998). 県内でドクウロコイボダイが採集されることは極めて希であり、今回、約30年ぶりに採集されたので、ここに報告する.

計数・計測方法は Abe (1955)、藤田・西野 (1966) に従い、標準体長は SL と略記した. 標本の撮影と計測は生鮮時に行い、長さはデジタルノギスとディバイダーを使用し 0.01 mm 単位で、体重は電子天秤を使用

\*ミュージアムパーク茨城県自然博物館 〒306-0622 茨城県坂東市大崎700 (Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando, Ibaraki 306-0622, Japan).

\*\*茨城県環境アドバイザー 〒319-1221 茨城県日立市大みか町6-6-42 (6-6-42 Oomikamachi, Hitachi, Ibaraki 319-1221, Japan).

し0.1 g単位で計測した。ホルマリン固定前にDNA解析用の標本として右体側の上部中央より約10 mm角の筋組織(約0.2 g)を採集し、99.5 %エタノールで保存した。本報告で用いた標本はミュージアムパーク茨城自然博物館に登録・保管されている。

**標本** ドクウロコイボダイ: INM-1-063001, SL 343.1 mm, 体重 349.1 g, 茨城県那珂湊沖(36° 20' N, 140° 54' E), 底曳網, 水深約180 mの海底付近, 2015年4月18日, 採集者: 五来靖彦。

**記載** 背鰭19棘+1棘11軟条, 臀鰭1棘10軟条, 胸鰭15軟条, 腹鰭1棘5軟条, 側線鱗数102, 側線上方鱗数7, 側線下方鱗数12。体各部の計測値はSL比(%)で示す。最大体高18.0, 尾柄長26.0, 尾柄高4.4, 頭長20.6, 眼径3.6, 吻長6.6, 両眼間隔5.5, 第1背鰭基底長30.6, 第2背鰭基底長10.8, 臀鰭基底長8.9, 胸鰭長10.3。

体は細長く、やや側扁する。頭部および体は櫛鱗に覆われる。体側鱗は規則正しく斜めに配列され、しっかりと固着している。尾柄基部には鱗で覆われた2本の縦走隆起線がある。口は斜位で、開顎時に上顎は伸出しない。下顎は上顎よりもわずかに短く、閉顎時は上顎の内側に収まる。下顎は、前縁の中央部がV字形にくぼんでおり、1列の犬歯状歯が密に並び、ステーキナイフ状の特徴的な歯列を形成している(図2)。背鰭は2基で、第1背鰭基底は長く、第2背鰭基底の約2.8倍、鰭収納溝を備える。第1背鰭の鰭膜は棘に比べ著しく未発達で、第6-8棘間をのぞき不連続である。また第17-19棘は非常に小さく鰭膜はない。臀鰭



図2. ドクウロコイボダイ頭部。

Fig. 2 Head of *Tetragonurus cuvieri*, INM-1-063001.

起部は第2背鰭起部よりも後方に位置する。腹鰭は胸位で、その起部は胸鰭起部よりも後方にある。腹鰭先端は、胸鰭先端の直下に達しない。尾鰭後縁は深く切れ込み二分する。生鮮時の体色は全体が黒褐色。尾柄基部、頭部側面および体側下部に淡色斑が散在する。筋肉組織は、白色で柔らかく油分に富む。

中坊・土居内(2013)は、ドクウロコイボダイの分布に高知県を含めている。しかし、本稿の執筆にあたり、各地の記録を調査したところ、高知県での採集記録はないことが判明した。中坊・土居内(2013)は、高知の記録についてShinohara *et al.* (2001)を参考にしており、さらに、Shinohara *et al.* (2001)は、岡田・松原(1938)の記載を引用している。岡田・松原(1938)には、「ウロコイボダヒ *Mulichthys squamiceps* LLOYD[高知沖の深海底]」の記述がある。この「ウロコイボダヒ」という和名は、当時、ドクウロコイボダイ *Tetragonurus cuvieri* とボウズコンニャク *Cubiceps squamiceps* の2種類の魚類に用いられていた。岡田・松原はボウズコンニャクを「ウロコイボダヒ」と呼称しており(Abe, 1953)、学名についても *Mulichthys* が *Cubiceps* の異名であることを岡田・松原(1938)の共著者である松原(1955)が言及していることから、岡田・松原(1938)の「ウロコイボダヒ」はボウズコンニャクである。このことについて、Shinohara *et al.* (2001)の第1執筆者である国立科学博物館の篠原現氏に問い合わせたところ、記録の収集作業において、学名と和名を別々に検索したために生じた誤りであるとの返答をいただいたため、本稿では高知県の記録を削除した。Abe(1953)は混乱を避けるため、*Tetragonurus cuvieri* をドクウロコイボダイと改名しているが、実際には毒性はないことが判明している(Abe *et al.*, 1988)。

## 謝 辞

標本を採集し贈与して頂いた五来靖彦氏(茨城県日立市)に深く感謝する。また本報告をまとめるにあたり、文献を提供して頂いた高村直人氏(鳥羽水族館)、本原稿対し適切なお助言をいただいた篠原現博士(国立科学博物館)に謹んで感謝の意を表す。最後に、ドクウロコイボダイの分布に関してご教示を賜ったばかりか、多数の貴重な文献まで送って下さった遠藤広光

博士（高知大学）に厚く御礼申し上げます。

### 引用文献

- Abe, T. 1953. New, rare or uncommon fishes from Japanese waters. II. Records of rare fishes of the families *Diretmidae*, *Luvuridae* and *Tetragonuridae*, with an appendix (description of a new species, *Tetragonurus pacificus*, from off the Solomon Island). *Japan. J. Ichthyol.*, **3**(1): 39-47.
- Abe, T. 1955. New, rare or uncommon fishes from Japanese waters. V. Notes on the rare fishes of the suborders *Stromateoidei* and *Tetragonuroidei* (Berg). *Japan. J. Ichthyol.*, **4**(1/2/3): 113-118.
- Abe, T., S. Hirayama and M. Funabashi. 1988. Record of squaretails (*Tetragonuridae*, Teleostei) from the Pacific Coasts of Japan. *Uo*, **38**: 9-12.
- Doiuchi, R., T. Sato and T. Nakabo. 2004. Phylogenetic relationships of the stromateoid fishes (Perciformes). *Ichthyol. Res.*, **51**(3): 202-212.
- 藤田惣吉・西野耕一郎. 1966. 宮古湾で採集したドクウロコイボダイ類について. 魚類学雑誌, **13**(4/6): 205-209.
- 舟橋正隆. 1998. 茨城県沿岸の魚類相. 茨城県自然博物館研究報告, (1): 75-96.
- Haedrich, R. L. 1967. The stromateoidei fishes: Systematics and a classification. *Bull. Mus. Comp. Zool.*, **135**(2): 31-139.
- Haedrich, R. L. 1986. Family No. 256: Tetragonuridae. In: M. M. Smith and P. C. Heemstra (eds.). *Smiths' sea fishes*. pp. 851, Springer-Verlag, Berlin.
- 松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索 第1版. 789 pp., 石崎書店.
- Nelson, J. S. 1994. *Fishes of the world*. 3rd ed. 600 pp., John Wiley & Sons, New York.
- 中坊徹次・土居内龍. 2013. ドクウロコイボダイ科. 中坊徹次(編). 日本産魚類検 全種の同定 第三版. pp. 1085, 2042-2043, 東海大学出版会.
- 岡田弥一郎・松原喜代松. 1938. 日本産魚類検索. 584 pp., 三省堂.
- 岡本 誠・井田 齊・杉崎宏哉. 2001. 北西太平洋より得られたドクウロコイボダイ科2種の仔稚魚. 魚類学雑誌, **48**(2): 113-119.
- Shinohara, G., H. Endo, K. Matsuura, Y. Machida and H. Honda. 2001. Annotated checklist of the deepwater fishes from Tosa Bay, Japan. *Natl. Sci. Mus. Monogr.*, **20**: 283-343.
- Suzuki, K., O. Tsukada, K. Yamamoto and M. Furuta. 1995. Record of four rare stromateoid fishes from Mie Prefecture, Japan. *Annual Report of Toba Aquarium*, **6**: 61-67.

(キーワード): イボダイ亜目, ドクウロコイボダイ科, ドクウロコイボダイ, 茨城県.